知多南部広域環境センターの
建設請負工事説明会　要点録

日 時 ： 平成 30 年 12 月 15 日（土） 15：00～16：00（受付開始時刻 _ 14：30）

会 場 ： 武豊町中央公民館［講堂］

出席者

・知多南部広域環境組合

管理者	武豊町長　籾山芳輝
事務局長	竹内　　健
事業課長	太田　　弘
総務課長	若松　幸一
専門監	原田　弥生
事業課	鈴木　　徹
〃	西村　　健
総務課	冨谷　佳成
〃	百合草　文哉

・事業者（川重・徳倉建設・七番組・大進特定建設工事共同企業体）

川重㈱	中部支社支社長　平塚　修二
〃	工事課長　久馬　安人
〃	営業課長　中村　誠
〃	橋元　篤志
〃	青木　洋志
徳倉建設㈱	工事長　加藤　洋樹
〃	服部　司
㈱七番組	主任　吉田　知弘
㈱大進	代表取締役　家田　雅夫

・設計施工監理委託者

ﾊﾟｼﾌｨｯｸｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ㈱	室長補佐　村田　俊明

一般参加者　　（名）

半田市	3
常滑市	4
美浜町	4
南知多町	2
武豊町	１６
報道（中日新聞）	1
合　　計	３０

1　開会　【開始　15：00】

2　管理者あいさつ

武豊町長　籾山　芳輝

3　出席者の紹介

・知多南部広域環境組合

管理者　　武豊町長　籾山　芳輝

事務局長　竹内　　健

事業課長　太田　　弘

専門監　　原田　弥生

他２名（鈴木、西村）

・川重・徳倉建設・七番組・大進特定建設工事共同企業体

川重㈱　　中部支社支社長　平塚　修二

環境ﾌﾟﾗﾝﾄ部ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ１課　橋元　篤志

徳倉建設㈱　建設部工事長　加藤　洋樹

㈱七番組　　建築部主任　　吉田　知弘

㈱大　進　　代表取締役　　家田　雅夫

・パシフィックコンサルタンツ㈱

室長補佐　村田俊明

4　本日の説明内容

①組合事業の概要

②工事説明

５　質疑応答

（質問者Ａ）

まず、一点目は、今、土壌調査をしているとのことだが来年の２月、３月くらいまで土壌調査をするという予定になっているんですが、ダイオキシンが地下水の中で１pg-TEQ/Lの基準を超えて、今回約９pg-TEQ/L、ナンバー１の観測井戸で現状としてダイオキシンが出ております。

このような土地で、半田市でも一度、撤退されたことがあると思うのですが、建てても良いものなのか。また、県と相談しているとしておりますが、実際にどのような工事方法でやろうとしているのか。また、おそらく、土を掘り返してその土を何処かへ持って行かなきゃいけないですね。ダイオキシンがいっぱい入ったような土を何処で処理しようとしているのか。アセックなのか。アセックで３１億使って処理しようとしているのか。その辺のことについて、住民は非常に不安がっています。それを一報よろしくお願いします。それと２点目ですが、実際に組合の工事になると思いますが、約１００億で運営するということだが、各５市町の負担が１００億以上の追加になることは無いのか、契約状況をしっかり説明していただきたい。

【事業課長】

それでは初めにダイオキシンについて、ご説明させていただきます。実際に環境基準を超えるダイオキシンの地下水汚染が確認されています。こちらにつきましては、まわりの４カ所につきまして、基準を下回っており、敷地内からは出ていない状況となっております。それと掘削土壌の処理になりますが、そちらにつきましては、土壌含有の基準が1,000pg-TEQ/gピコグラムという事になっています。それ以下の250pg-TEQ/gという調査指標値がありますので、それを超えた場合、どのような形で処理したら良いかという事は県と協議しております。その場合、処理する場合はアセックとかでは無く、きちんとした処理業者へ持って行くと言う形になると思います。

次は委託運営の１００億という話ですが、こちらも企業から経営案として出していただいております。ただ、あくまでも通常の運転については変わりありませんが、燃やすごみの量が想定よりも増えた場合、用役費や焼却量に対して影響がございます。ですから、皆様にごみ減量をしていただいて、運営が出来るようにご協力をお願いしたいと存じます。

（質問者Ａ）

ありがとうございます。ダイオキシンの問題は、私の方にも資料いただいているのですけども、隅だけ、これ測ってるんですねナンバー１からナンバー５。これナンバー１のところで出てるんですけど、５番のところでもう少し詳しく、調査地点を増やしてダイオキシンの問題については調査すべき内容だと思うんですがいかがでしょうか

【事業課長】

現在、土壌調査を実施しており、今までは水質調査を実施しております。全ての敷地に対して土壌調査を行っております。分析が終わるのが１カ月後くらいになりますので、その中から汚染状況をみて、愛知県の指導のもと、対策方法を協議していきたいと思います。

（質問者Ｂ）

管理運営期間の段階で、車両が２市３町から入ってくるのですが、１日だいたい何台くらいを想定されているのか、それから、搬入路はどこから入って来るのか、それからもう一点は、実際に工事期間中にその車両数、それに対する対応。駐車場も２００台くらいあるとのことだが、工事期間中はどのような対応をされるのか、お聞かせ願いたいと思います。

【事業課長】

施設が出来てからの搬入される車の台数についてご説明いたします。搬入ルートは、今現在、臨港道路から入っていただくことになります。北側からでいきますと、堀川新橋北では概ね往復約７３０台が見込まれています。こちらについては現在の交通量（約 17,900 台）に対し、約４％の増加が見込まれています。南側からはアサヒガラス㈱の国道２４７号線にある浦島橋付近で、現在は１万５千６百台ほど走っておりまして、それに対して南側から来るのは１０６台、約０．７％が加わるという形になります。南側が少ないのは、搬入車両はパッカー車だけでなく、直接持ち込まれる一般の持込というは美浜町・南知多町につきましては、今現在あります南知多クリーンセンターに中継施設を設け、そちらで集めて、合わせてから持ってきますので、こちらに持ってくる台数は非常に少なくなってくると感じております。

直接、持込む搬入経路についても臨港道路から入るのですが、搬入の入り口につきましては、現在、近隣の事業者と調整中でございます。出入り口については、今後、供用開始、利用についてもお願いということはありますが、平成 33 年度頃までにはご説明をさせていただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

【川崎重工業】

工事中に関しての工事車両の通行に関してですが、基本的なルートといたしましては、やはり臨港道路を使っての工事現場まで行き来になります。工事車両の台数としましては、工事開始して当面は数十台、それは通勤車両込みの台数になります。、中盤から後半にかけて台数的なピークが出てくるだろうと思いますが、そこで一日百数十台、それも通勤車両込みの台数で計画しています。

（質問者Ｃ）

２点ほどお伺いしたいと思います。資料の２０ページにあります排ガスの排出基準ですが、最終的には計画基準値は法令規制値に比べ非常に低くされているわけなんですけど、現在、あちこちで作られとる施設で見ても当然のことであって、これより排出基準が悪い装置というは売り出されてないと思います。そういった事を前提にして話したいと思います。一つは焼却炉の一日の排ガス量、一時間あたりどれくらいなんでしょう。

それからもう一つは、煙突の高さが５９メートルという事で、排ガスの最大濃度着地地点では施設から何メートルくらい先になりますか。それからもう一つは２６ページにあります学習施設、これはもう少し内容を詳しく説明していただきたいという事と、一日の利用者数をどのくらい見込んで設計されているかそのあたりお願いします。

【専門監】

それではまず排ガス量でございます。約４万m3N／時の排ガス量を想定しております。これが多いのか少ないのかという事は非常に難しい話ですが、数字としては４万という数字を出させたいただいております。煙突から出て最大着地濃度がどの辺にあるかという事ですが最大で約１千２百メートルの地点になります。煙突から１千２百メートルの地点が最大着地濃度の地点という事でございます。

【川崎重工業】

学習施設の来場者ですが、メインは小学校の４年生の社会科での来場になりますので、この２市３町の方から来られる児童生徒数と思います。それ以外だと一般に来場される方になりますが、一般の来場に関しては今の時点でどれほどの関心度があるのか、どれほどの数字の予測まではしておりませんが、一回に例えば１００人、２００人来ていただいても収容できるような形での施設の設計をしております。

（質問者Ｃ）

先程の施設の問題なんですけど、隣に今、運転しています中山共同開発の煙突が８０メートルで最大着地濃度が８００メートルなんですね、それと比べると千２百メートルというのは、ちょっと遠いなという感覚になる。その差というのは何があるのか分かりましたら。それから学習室の問題ですけど、それは豊田市の同じような施設の学習室は、一般に対する内容は非常に進んでいると思いますので、参考にして一般の方にも十分、環境学習に必要な内容にしていただきたいと思いますけど、そのような他の施設の教室の実態の調査されたうえでこういった計画をされているか。

【専門監】

まず、最大着地濃度というのは排ガス量と排ガススピード、また、その時の温度等が要因としてございますので一概に煙突の高い低いだけでは、その距離の長い短いという事にはならないというふうに考えております。

【川崎重工業】

引続きまして、学習施設について他の施設について参考にしているかとのことですが、私共で建設した施設以外に、業界の中で交流をしながら様々な施設の方を見て参考にしているということはあります。今回に関しましては、一度来てそれきりという事では無くて、もう一回来た時に新しい発見といいますか、他の来場者の方がどういう風に考えて感じたものをまた見ていただいたり、廃材を使っていろんな取組みをしたり、それからワークショップを企業さん等に協力いただいてやっていただくというようなコンセプトでご提案をさせていただきました。、そういうところや提案内容を評価していただいていると思っておりますので、そこを踏まえて最終形としたいと思っています。

（質問者Ａ）

１６ページのところで、施設の概要の説明で、武豊町温水プールへの熱供給ということが書いてあります。あの武豊町との契約になるかと思いますが、一応、熱回収の施設になるんで熱が発生すると、武豊町が温水プールを作って７ギガジュールと言ったかな、その熱供給をするという事が書いてありますけど、これはここまでは書いてあることからタダで供給する、武豊町からお金は一切貰わないという契約になっていると、そこら辺をお伺いします。

【事業課長】

武豊町温水プールへは余熱の供給という形で最大７ギガジュールを供給する事としておりますが、これに関しましてはあくまでも、発電をしたのちの余熱という形を取っておりますので、武豊町とは無償で提供するという形になっております。

６　閉会　【終了　16：00】